

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600212		
法人名	医療法人社団 早川内科医院		
事業所名	グループホーム そらり		
所在地	山口県山陽小野田市大字西高泊1334番地1		
自己評価作成日	平成30年3月25日	評価結果市町受理日	平成30年8月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年4月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営推進会議を通して、地域のサロンが敷地内のサービス付き高齢者住宅で行われるようになり、地域との関係が密になり、地域行事に出掛けることが出来る様になってきた。利用者様が、おおつかサロンやたかとりカフェに参加され、地域の方と触れ合うことで刺激を受けることもあり、I 楽しかったよ。また参加したいね」と満足されている。今年度も地域の協力を得ながら、毎年行われているフェスタ(今年度は7月にサマーフェスタ)の開催を予定しており、地域の方は勿論、小学生等の子供の参加がしやすいように、現在企画中である。また、年2回の避難訓練では、地域も加わり火災・水害避難訓練を行い、消防士を講師にお招きし、煙の流れや身近な物で担架を作り、実際に担架に横になり持ち上げるなど実技を加えた救命法に取り組んだ。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

拠点内研修は、月1回、計画(認知症、防災、身体拘束、救急救命、看取り等)に基づいて実施しておられ、職員は勤務体制を考慮して参加され、内部研修で復命されて全職員で共有されて、レベルアップに取り組まれています。内部研修は、今年度は看取りケアに重点をおいて年11回実施しておられ、利用者の支援につなげておられます。利用者は地域で開催される「サロン」に参加されたり、今年度から地域の人の協力を得られて開催しておられる拠点合同での「認知症カフェ」にも参加され、地域の高齢者やボランティアの人の交流を深めておられる他、小学校の運動会や学習発表会にも出かけられて交流されています。拠点施設合同で実施される避難訓練に、年1回、運営推進会議のメンバーが参加されている他、事業所の緊急連絡網に自治会長と民生委員が加入しておられるなど、災害時の地域との体制を構築されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットで全員で考えた実践目標を考え取り組んでいる。理念は広報誌に記載し職員一人一人の名札に常に携帯し職員がそろったら毎日唱和している。それぞれのユニットで理念に沿った目標をたて、実践するようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた法人理念を事業所の理念とし、ユニット毎に介護目標をつくり、事業所内に掲示している他、事業所だよりや職員の名札の裏に記載している。朝の申し送り時に理念と介護目標を唱和して共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンを同敷地内で毎月行う事になった。サロンの開催日には数人ずつ参加させて頂いており、地域の人たちと交流している。また、小学校の運動会や学習発表会に参加したり、交流会としての訪問があり、一緒に楽しい時間を過ごした。	自治会に加入している。利用者は、月1回開催している地域サロンに出かけている他、地域の人の協力を得て今年度から開催している拠点施設合同ででの「認知症カフェ」に参加して地域の人と交流している。拠点施設で開催しているスプリングフェスタでは、施設見学や手づくりおやつの販売があり、利用者も参加して地域の人と交流している。小学校からの招待をうけて運動会に参加したり、学習発表会の見学に出かけたり、小学生の来訪があるなど交流している。拠点施設にボランティア（フラダンス、サックス演奏等）の来訪があり、利用者も出かけて交流している。近所の人から定期的に花の差し入れがある他、散歩や買い物時に顔見知りの人や近所の人と挨拶をしているなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では利用者様をはじめ、地域の代表者様も参加され、意見を言う機会も設けている。より活動内容をご理解頂ける様、事例発表も行っている。参加されている方は、認知症の理解を深めておられる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義の理解を深めるために、一日短時間ながら出勤した職員と意見交換を行いながら「私だったら」「職員として」、自己評価について話し合う機会を持った。すべての項目を書き込んだところで再び全職員が目を通し最終意見を求めた。	管理者が評価の意義について説明している。全職員に自己評価をするための書類を配布し、職員は担当の項目に記入し、朝のミーティング時に全職員で話し合い、管理者と主任がまとめ、まとめたものを全職員で確認している。外部評価結果を受けて課題について話し合い、緊急時の応急手当や初期対応について内部研修で学んでいる他、地域との交流について、認知症カフェを開催や地域サロンに利用者と職員が一緒に参加して地域の人との交流の機会を増やす取り組みなど、できるところから改善に取り組んでいる。	・評価の意義と項目の理解
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回開催している。取り組み状況を紹介している。取り組みについて意見を述べる機会が増えてきた。同敷地内で地域のサロンが開催されるようになった。防災の連絡体制が整い避難訓練も実践した。	薬剤師(3人)、家族、自治会長、小学校校長、保育園職員などの地域メンバーの参加を得て、会議は拠点施設合同で2ヶ月に1回開催している。利用者の状況や活動内容、行事予定、ヒヤリハット、事故報告書、避難訓練、地域活動などの報告をして、話し合いをしている他、メンバーの参加を得て避難訓練を実施している。議題にしていた拠点施設が開催する認知症カフェ(物忘れ、相談室を含む)を今年度から地域の協力を得て、開催することで利用者や地域の人との交流の場となるなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者や主任が市の担当と会って連携を取っている。また法令についての考え方など情報を市に出向きやり取りし、保険者と事業所の情報交換を密にしている。	市担当者とは、運営推進会議の他、出向いたり、メールやFAX、電話で相談して助言を得たり、情報交換をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時やケアマネジャー連絡会議時に利用者状況や「認知症カフェ」等について話し合い、連携している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の施設内研修も行い、スタッフ間の意識は高い。身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。	マニュアルがあり、内部研修で学び、職員は理解をして、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠をしないで外出したい利用者とは、職員と一緒に出かけている。スピーチロックについては日常業務の中で職員間で話し合っている他、管理者やリーダーが注意して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の施設内研修を行っている。また、毎週行う朝礼で他施設で起きた事件に触れ、自施設でも虐待が起きないように注意喚起を行いノートに記し職員全員が閲覧を行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年度運営推進会議に後見人を招いて成年後見制度について学んだ。それを基にミーティングを使い学んだ。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や重要事項説明事項などの説明は各資料に基づいてわかりやすい言葉で説明している。また、改正時には全家族に内容を連絡している。フロア内に見える場所に掲示している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに意見や要望を伺っている。運営推進会議や行事、手紙送付時に職員が意見を聞き取る様にしている。玄関に意見箱も設置している。また、運営推進会議議事録や苦情に関した書類も誰でも閲覧できるようにしている。	契約時に相談、苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員について家族に説明している。面会時や運営推進会議時、事業所だよりや家族宛の手紙の送付時、電話等で家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。ケアに関する要望についてはその都度対応をしている。運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、管理者はミーティング時には毎回出席をし、職員の意見や外部研修の報告を聞いている。意見は一人一人聞き取るようにしている。それに対して意見や感想を述べている。	施設長による年2回の個人面談があり、就業環境等についての意見や要望を聞く機会を設けている。管理者やリーダーは、月1回のミーティング時や日常業務の中での職員の意見や提案を聞いている。職印の勤務体制の変更や業務内容の簡素化についての提案などを反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長が半年に一回、職員一人一人と面談を行っている。勤務形態、労働時間など希望があればそれに答えるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には全員が行けるように配慮している。行った職員はミーティングの時に報告をする機会を設けている。新任研修も入社後すぐに全27項目について研修を行っている。現場では、主任、先輩スタッフが指導者となり日々の業務の中で指導している。法人研修は年12回行っている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じ勤務の一環として受講の機会を提供している。今年度はターミナルケア研修に1回参加し、受講者は研修報告書を提出し、内部研修時に復命をしている。月1回の拠点内研修(認知症、防災、感染症、食中毒、身体拘束、虐待、救急救命、看取り等)に参加し、内部研修で復命している。資料等はいつでも閲覧できる。内部研修は、今年度は看取り介護を重点目標に置き、年11回実施している他、外部研修や拠点内研修の復命研修をしている。新人研修は、法人研修を2週間受講後は、事業所において先輩職員の指導を受けて、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、地域ケア会議や介護支援専門員連絡協議会、認知症支援ネットワーク会議へ積極的に参加させてサービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご家族や利用者様と面談時に聞き、入所後も本人の要望等を聞いている。生活歴や好み、趣味などを尋ねるようにしている。なるべく以前の好みが継続できるよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアカンファレンスや契約の際、または面会時の短い時間でも利用し、ご家族様と話ができる機会を設けて関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居を前提とせず地域の社会資源を活用できる方法を助言している。現に在宅サービスに繋げたケースもある。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年末にお正月の生け花を、職員が見守る中、利用者様お二人で仲良くお花を届けられ、お正月の雰囲気を楽しまれた。その他の行事も、一緒に楽しめる物を毎月企画している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事前に連絡し希望されるご家族様には、クリスマス会、誕生日会等の催しに参加され利用者様とも一緒に楽しめる。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や外食への支援を行い、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	家族の面会や親戚の人、知人、友人、近隣の人の来訪がある他、年賀状や手紙、電話の取り次ぎなどでの交流を支援している。自宅周辺や慣れ親しんだ場所へのドライブなどの他、家族の協力を得てのカラオケ、買い物、外食、馴染みの美容院の利用など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置は固定せず柔軟に配置換えを行っている。外に散歩に行く時には歩ける利用者様が車椅子を自然に押して下さるなどの光景も見られる。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人様、ご家族の希望を聞き日頃から、相談しやすい雰囲気作りをしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートを利用し本人の思いや意向を本人が発した言葉も含め把握するように努めている。また、外出を希望される利用者様のプランに外出を入れたり、通院時には、慣れ親しんだ場所を通ったりする。	入居時のアセスメントシート(本人や家族の意向、身体状況、生活歴、暮らしの意向等)を活用している他、日々の関わりの中での利用者の言動や様子、職員の気づきなどをケース記録に記録して、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に取り組んでいる。把握が困難な場合は、家族からの情報を得て、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や関わっていたサービス担当者からの情報収集を行っている。ご家族様が来られた時には近況を報告し、今までの生活の様子を聞いて職員間で共有している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のミーティングで担当職員が利用者様の近況や検討課題を報告し、出席職員全員で課題について検討する様にしている。現状を全職員が把握出来るようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、医師、看護師、薬剤師の意見を参考にして計画作成者と担当者が中心となり職員で話し合いを行い、介護計画を作成し実行している。現状が変わる都度計画を見直し、現状に即した計画になる様に努めている。モニタリングは一か月ごとに担当が行っている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心になって、月1回のカンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、1年毎に見直しをしている他、利用者の状態や要望の変化に応じて、その都見直しをして現状に即して介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って出来ていることがわかるように記録用紙を変更し出来ていない所がすぐにわかるようにした。出来ていない所は、職員間で話し合いを行っている。介護日誌も新しく作成し1ページで1日の業務内容がわかる様にした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気軽に面会出来るように対応しており、人数が多い場合は別室を用意したり、家族に気兼ねせず面会出来るよう配慮している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサロンに参加したり、地域の方と触れ合う機会が増えてきた。地域の小学校へは運動会や学習は発表会に招いて頂き数名で出席している。その他、一緒に近所のスーパーに買い物に行ったり、本人の希望に添えるようにしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の納得を得て、全員が協力医療機関をかかりつけ医として、月1回の全体訪問診療とほぼ毎日個別訪問を受けている。他科への受診は、必要に応じて事業所が受診支援を行ったり、ご家族が行ったりしている。また、訪問看護とタッグを組み、日常生活や緊急時の医療連携体制も充実させた。受診結果等は、家族に電話や手紙等で連絡を行い、介護記録にて情報を共有している。特変があった場合はその都度ご家族にもお知らせし、結果も必ず報告している。	事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の全体診療と個別訪問診療を受けている。他科受診は家族の協力を得て受診の支援をしている。受診結果は電話や面会時、手紙等で家族に伝えている。職員間ではケース記録に記録して、共有を図っている。週1回、訪問看護師の来訪があり、健康管理を行っている。緊急時や夜間時には、協力医療機関と連携して、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を行い、看護師に週一回利用者様の血圧の変動、排便コントロールがスムーズに出ない時など近況報告行い指示を受けている。指示が出たことに対しては連絡帳に記入して皆がわかるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には書面にて情報提供を行い情報共有に努めている。またお見舞いを兼ねた様子観察を行っており、病状の変化、経過について入院先のソーシャルワーカーや看護、ご家族から情報を得て記録に残すようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時事業所で出来る対応を説明している。状況の変化が見られた時には、ご家族と相談して意向を確認し早期にケアプランを作成して説明をしている。さらに重度化していく場合には、終末期に向けた承諾書を作成し、再度の意向を確認しながら方針を決めていく準備を行う。介護職・看護職間の情報共有に努めるようにしている。	契約時に「看取り介護指針」に基づいて事業所で出きる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階からその都度、家族や主治医、看護師等と話し合い、医療機関や他施設への移設、看取りについてなど方針を決めて共有し、承諾書を交わして、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ひやりとしたことをインシデントリポートとして作成し、対策を職員全員で検討しまとめすぐに実行する。さらに一か月ごとに対策を実行してどうだったかをミーティングで報告し検討している。また、全職員が実践力を身につける為、AEDを導入して職員全員が実技を加えた救急法に取り組んでいる。応急処置や初期の対応についてもマニュアルが充実したので、研修を行っている。	事例が発生した場合は、インシデントリポートにその日の職員間で再発防止策を検討して記録している。全職員は再発防止策についてコメントを記載し、ミーティング時に話し合った対策を1ヶ月間試みて再検討して、利用者一人ひとりの再発防止に取り組んでいる。急変や事故発生時に備え、事故防止マニュアルに基づいて、月1回の拠点研修時に救急救命法を実施し、内部研修で救急救命法の復命をしているが、全職員が応急手当てや初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、火災報知器の使用方法を始めとし日頃から、火災に対する意識を持ち利用者様の安全を第一としている。事業所の防災管理者が中心となって年に2回消火器や日中想定避難訓練を行っている。地域との協力体制として緊急連絡網の構築や、地域の方も含めた毛布を用いた簡易担架の作成方法、運搬方法を学んだ。	年2回、拠点施設全体で昼間想定火災時の消火、通報、避難誘導訓練を利用者も参加して実施している。マニュアルに基づいて風水害の研修をしている。年1回、避難訓練に運営推進会議の地域メンバー(自治会長、民生委員など)の参加を得て、利用者の見守り、避難訓練、簡易担架の作成や運搬方法を実施している他、事業所の緊急連絡網に自治会長や民生委員の加入があり、災害時には地域の人の協力を得られるなど、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室、トイレ、風呂にはプライバシー配慮の札をかけてケアに入るようにしている。入浴時・排泄時・お部屋で過ごされる場合のプライバシーは損ねない様に利用者様の耳元で小声で行うようにしている。記録等の保管や取扱いには留意し徹底している。	内部研修で学び、職員は理解して、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いや管理に留意するとともに、守秘義務についても遵守している。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時や起床時の衣類を選んで頂いたり、フロアで過ごしたいのかお部屋で休みたいのかお尋ねするようにしている。それぞれのペースを尊重し急がせたり、出来ないと決めつけたりせず無理強いのない関わりを心掛けている。			
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースや希望に応じたレクを用意するようにしている。入浴やレクへの拒みがあった時には、無理強いせず気持ちが落ち着かなかつた時には、個別に外気浴するなどの支援をしている。			
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣や入浴の際にご自分で洋服を選ぶ方には選んで頂き、化粧水を付けて差し上げたりしている。お写真を撮る時は、お好きな口紅を選んで頂き鏡を見ながら塗って頂く。			
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の個々のADLの状況や好みを把握し、管理栄養士と情報交換をしている。月に一回手作り昼食を行い、利用者様が出来る事は手伝って頂くようにしている。また、無理なくお食事が頂けるように、握りやすいおにぎりや一口大にカットした副食を少しずつお出ししたり、一度に多くの物があって集中出来ない方には、一品づつお出しするなどしている。また、季節事の行事食も工夫している。利用者様には、トレーを拭いて頂いたり洗い物をしたりと役割を持って頂いている	三食とも拠点施設の配食を利用している。利用者の好みや状態に合わせて、おにぎりやきざみ食、ミキサー食など工夫して、提供している。利用者はトレー拭き、食事の挨拶、下膳、食器洗い等、できることを職員と一緒にしている。季節の行事食(おせち、ホットケーキなど)、月1回の外食などの他、家族の協力を得ての外食など、食事が楽しみになるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量を把握し記録している。食事形態は状態に合わせて管理栄養士と相談し、柔軟に変更している。食事だけでは栄養が不足してしまう方には、補助食品を提供している。水分摂取量が少ない方は、一日の目標を決めて好みの飲み物を用意するなどして水分補給に努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている。義歯は、夕食後義歯洗浄剤に浸けて清潔に心掛けている。歯ブラシ・コップは、定期的に消毒し保管している。口腔内を常に観察し、トラブルが発生した場合は、訪問歯科診療を利用し専門家と連携を取っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを観察し把握している。排便しやすい体位がそれぞれ違うので、その方に応じた腹圧の掛けやすい体位や排便が出やすい時間を職員間で話し合い、失敗の少ないように努めている。	バイタルサインチェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に合わせた声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤だけに頼らない様に朝にヨーグルト、飲み物に砂糖の代わりにオリゴ糖にして摂取してもらっている。トイレや入浴時の腹部マッサージも行っている。水分量が少ない方には、チェック表を作り、細目に水分を勧めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の希望を聞いてタイミングを見ながら順番を考えている。湯温は利用者様の好みに応じて変えたり、入浴剤を好まれる方には、入浴剤を入れて満足して入って頂けるように配慮している。入浴したくない方には、無理強いせず時間をかけて対応している。また、状態などに合わせて、清拭・シャワー浴・足浴などの対応をしている。	入浴は毎日、9時30分から11時までと14時から15時30分までの間可能で、一人ひとりの希望に応じてゆっくりと入浴できるように支援している。利用者の好み入浴剤やシャンプーを使ったり、職員と会話をしたりして、ゆっくりと入浴できるよう支援をしている。利用者の体調に合わせてシャワー浴や清拭、足浴などの対応をしている。入浴したくない人には無理強いをせず、時間の変更や職員の交代、言葉かけの工夫をして個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の希望、生活習慣、体調などに応じて対応している。日中外気浴を行ったり、気分転換を行い安眠出来るように配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに一目で服薬の種類等がわかる様に、処方箋綴りを用意して職員の誰もが見られるようにしている。誤薬や服薬忘れが無いように、服薬を行った職員を記名し、服薬を行わなかった職員が空き袋をチェックするようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年の行事(書初め～クリスマス)、月1回の昼食作り、園芸等活躍できる場面を作り、楽しい時間を支援している。また、地域との交流として、運営推進会議や地域サロンへ参加し、ご自身の役割を感じてもらっている。毎日の生活では、洗濯物が乾く時間に率先して出てこられ、積極的に畳んで下さる方もいて、感謝を伝えて役割を感じて頂いている。	プランターでのチューリップ植え、水やり、季節の行事(節分、クリスマス会、書き初めなど)、お茶会、壁面作品づくり(貼り絵、折り紙)、ぬり絵、生け花、茶会、輪投げ、洗濯物たたみ、拭き掃除、トレー拭き、下膳、食器洗い、ラジオ体操、リハビリ体操、きよしのズンドコ体操、カラオケ、らっきょ漬け、おやつづくり(どら焼きなど)、雪だるまづくり、早口ことば、風船つり、輪投げ、朗読会、本読み、運動会、テレビ視聴、ボランティア(フラダンス、サックス演奏等)との交流など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられるように、季節ごとに外出する計画を立てた。墓参りやカラオケ、美容院などご家族の協力を得て出かけられる方もおられる。地区の小学校の運動会や学習発表にも出かけた。1人ひとりの希望や状況に合わせて支援計画を立て、家族や地域の方々と協力しながら取り組んでいる。	外気浴、近隣の散歩、買い物、認知症カフェや地域サロンへの参加、季節の花見(桜、つつじ、紅葉、バラ、水仙など)、ドライブ(馴染みの場所)、小学校の運動会や学習発表会の見学などの他、家族の協力を得てのカラオケ、馴染みの美容院の利用、一時帰宅、外食、ドライブ、買い物など、戸外に出かけられるように支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1対1で出かける機会がある時には、支払をして頂いた。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や遠方に住んでいるお孫さんや子供さんと電話で会話が出来るよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダのプランターに球根を植えて水やりをして育つ過程を見て頂き、咲いた花を見ながら季節を感じて頂いている。室内の環境整備には気を付けて日々気持ち良く過ごして頂ける様清潔に配慮している。居室入口の名札は季節ごとに入れ替え花や風景などの移りゆく季節感を出すようにしている。	日中はユニット間の仕切り戸を開けて食堂、リビングのスペースを一体化して、広々とした空間となっていて、ユニット合同でゲームを楽しんだり、別々に食事をするなど生活パターンの変化があり、気分転換ができる。広々と明るい空間にテレビ、ソファ、テーブル、椅子を配置して、利用者がゆったりと過ごせる居場所となっている。ガラス戸を開けると外のベランダに通じ、プランターの花を楽しんだり、近所の建物や風景を眺めることができる。温度、湿度、換気などに配慮し、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの向きを変えたり、個別にテーブルの位置を変え、その時の気分に合わせて過ごして頂けるようにする。職員も声の大きさを場面で工夫するようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にあったベッドの位置を工夫している。馴染みのタンスや椅子などを使用し安心して過ごして頂けるようにしている。ご家族のお写真が飾ってある居室もある。	整理タンス、鏡台、時計、テーブル、椅子、衣裳ケース、テレビ、籐椅子、化粧品などの使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真や手づくりの装飾小物や貼り絵などの作品を飾って、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴槽に手すりがあるので、職員が介助しながらその方の力を維持出来るように努めている。浴槽からの立ち上がり、失行により立とうとされない方でも二人介助や声掛けを工夫して立ち上がりを助け、個浴が継続出来るように支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームそらり

作成日：平成 30 年 8 月 20 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員による応急手当や初期対応の訓練の継続が必要である。	スタッフ全員が、緊急時統一した対応が出来るようになる。	①急変時や事故発生時に備え、法人の「事故防止対策マニュアル」「応急処置マニュアル」を自主勉強にてマスターする。 ②年に1回、拠点全体研修にて、救急救命法の研修を実施する。参加できていないスタッフは積極的に参加し、実践力を身につける。 ③内部研修で救急救命法の復命を行い、介護主任や安全対策委員が中心となって、一人一人急変時対応が出来るようにしていく。 ④夜勤申し送り時、応急手当のやり方を復唱し、いつも対応出来る様確認していく。	次回外部 評価まで
2	4	運営者、管理者、職員全員が、評価の意義と項目の理解について、統一した認識が必要である。	評価を把握し、計画的・継続的に取り組んでいき、サービスの質の確保や向上を図る。	①管理者、介護主任は日々の業務の中で、評価の意義や活かし方を伝えていく。 ②地域推進会議にスタッフも参加し、地域での現状を把握していく。また、議事録を回覧し、スタッフ全員把握していく。	次回外部 評価まで
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。